



天使に招かれて——本学の源泉に汲む

天使大学 学長 田畑邦治

天使大学の学生、保護者、後援会、同窓会、教職員の皆さん、こんにちは。今年4月1日から本学の学長として就任した田畑です。ご存じのとおり、コロナ禍の甚大な影響によって、本学もまた学事暦の大幅な変更を余儀なくされてきました。この間、本学の教職員は何度も会合を重ね、感染状況に合わせて、学生の学習、生活への対応策、支援策を講じてきました。まだ不十分なところもありますが、7月からは感染予防の徹底した対策を前提に、対面授業も段階的に再開させています。

天使大学は、2017年には学園創立70周年を、また2020年には大学創立20周年を迎えました。この記念すべき時期に、学長として任命されたことは身の引き締まる思いです。

就任後3か月余り、試運転のように勉強する日々でしたが、天使大学のこれからを展望していくためには、やはり創立の原点に還り、建学の精神を学び直すことが必要だと思っております。理念や理想はどうしてもきれいなこととみなされ、目前の問題解決が優先されがちですが、理念には理念の現実的な力があるのです。とりわけ私学における教育にもし明確な目的意識がなければ、その存在理由がありません。

さて、かねてより気になっていたことの一つは、「天使大学」の「天使」のことです。私の知人の中には、「美しい名前ですね」と素朴にほめるひともいましたが、「エッ、現実にそんな大学あるんですか」と言った人がいて、それはもったもなことだと思います。

そもそもそのような浮世離れた名前をだれがどんな意図で付けたのか、少し修道院の歴史や、大学の記念誌などを調べてみたことがあります。

本学の創立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道女会には、創立者マリ・ド・ラ・バシオンの著になる、『典礼及びフランシスコ会暦に拠る黙想書』（邦訳、昭和23年、天使院）という貴重な書物があります。その中に、8月2日の黙想のための祈りが詳細に記されています。それによれば、8月2日は、「天使の聖母聖堂奉獻」の記念日とされており、その聖堂の名称が「天使の聖母」であったのです。

「天使の聖母、ならびにその^{ていしん}廷臣なる諸天使、および^{おんせつり}主の御摂理の^{おんめぐみ}御恩恵によりて、わが守護者となれる天主の^{みつかひ}御使よ、我を照らし、護り、導き、治め給へ。」（第3巻、397頁）

「本日の祝典は、聖マリアが我等の父聖フランシスコと、フランシスコ会^{えうらん}の揺籃となつた聖堂とを、如何に優しい心でお愛しになつたかといふこと

を、我等に思ひださせる。」（同上、397-398頁）

「イエズスとマリアとが聖フランシスコの愛に感じ、天使方に囲まれて彼にお現われになつたのは、この見^み窄^{せま}らしい聖堂においてであつた。」（400頁）

これらの祈りや訓話を総合すると、「天使の聖母聖堂」と名付けられた聖堂の歴史が古くからあり、それを13世紀に聖フランシスコが修復したと伝えられています。それがイエスとマリアのたいに喜ばれるものであったので、「天使方に囲まれて」フランシスコに出現された、と。この由緒にちなんで、札幌に建てられた最初の質素な修道院が「天使の聖母」修道院と呼ばれていたものと推測されます（参照『日本におけるマリアの宣教者フランシスコ修道会の歴史、1898-1972』同会日本管区歴史編纂チーム、2011年、133-136頁）。

このことにやや詳しく言及したのは、「天使の聖母」という呼称がもつ福音的な響きのためです。本学のあちこちに聖母の絵やステンドグラスがあることに気が付きませんが、それはいずれも彼女が「天使」的な存在として賛美され、また、そのような方としてシスターたちの「修道院」や「家」（大学）が聖母に見守られていると信じられてきたからでしょう。

そもそも天使とはどういう存在者であるかについては、『天使病院75周年記念誌』（天使病院、昭和62年）の中で、シスター土屋淑子（当時の管区長）が「天使の三つのつとめ」に触れておられます。第一のつとめは、「神を賛美し、そのみ旨（むね）が行われるために仕えること」、第二のつとめは、「神からのよこごびを伝えること」と述べたあとに、第三のつとめは、「困難や危険にある人を助けること」と言われ、次の例を紹介しします。

「ルカ福音書には、キリストが受難の前夜、ゲッセマニの園で血の汗を流し、もだえ苦しみなから祈られた時、天使が来て仕え力づけたと記しています。被造物である天使が、創り主である神、キリストに力をお貸ししたとはどういうことなのでしょう。キリストはなぜそれほど無力になられたのでしょうか。病む人、苦しんでいる人の中に神がおられることを知ってほしいという神の切なるおのぞみをこうして示されたのではないのでしょうか。」（3頁）

ここに至って、私が先に「浮世離れた」と言った「天使」は、現実の最も深いところにおられ、病気や困難の中にある人々に近い存在であり、天使大学が育てようとする学生たちも、そのような意味での天使的な存在になるように招かれているのだと確信します。

学科長・研究科長メッセージ

新しい授業形式を模索する中で

天使大学開学20周年を迎える記念すべき年、新校舎で卒業生を送り、入学生を迎えることを楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により残念ながらそれはかないませんでした。

3月からのことを振り返ると、感染リスクを避け安全を守るということと教育学修をどう保障するか葛藤の中で選択に悩んだ日々でした。新入生のオリエンテーションの日程や時間割を何度も組みなおし、授業の開始や方法の検討、遠隔授業に向けて学生の通信環境の確認、サポート体制の構築、授業の準備など大忙しでした。5月の連休明けからオンライン授業を始め、徐々に拡大することができました。

4年次生の看護実習は、臨現場に出ることも大学に来て対面で授業をすることもできず、オンラインでの実習となり、これには教員もかなり頭を悩ませました。実習で患者様を受け持つことを想定して、コミュニケーション事例の情報を実習場と同様の形で提示し、学生はそこから得た情報をアセスメント、健康課題をリストアップ、看護計画を立案し、教員からコメントを受け双方向で学びを深めます。また、倫理的課題を考えるレポートや援助場面のロールプレイ、オンラインでのカンファレン

スなど様々な方法を駆使しての実習となりました。

思いがけない状況によりICT(情報通信技術)の活用は急速に進展しました。この新しい授業形式は、教育の内容や方法を今一度考え直す機会となり、効果的な活用方法の発見もありました。その一方で、対面で教員と学生とのやり取りの中で考え学習することの効果、実習等現場でリアルな体験をすることの重要性を改めて感じています。何をどのように伝えて、何を学んでもらうか教育の本質が問われます。学生も授業や課題に取り組む上で、自身が時間や行動をマネジメントすることが求められたと思います。

しばらくは、このような状況が続くことが考えられますので、今後の授業や行事等の検討も必要となります。この体験を良い方向での変革に活かし、学生が大学という環境で仲間や教職員とともに過ごすことで学ぶことの意味を考え、他者との出会いをとおして自分を見つめ、成長していくことを大切にしている建学の精神を貫く教育をどのように実践するのか考えていきたいと思っています。

看護学科長 吉田 礼維子



臨床に強い管理栄養士を育成したい

本校は人々の生活支援に貢献する専門職業人(管理栄養士)として活躍する人材を養成する大学です。何を学ばせるのかという教育内容に加えて、どのように学ばせるのかという教育方法もカリキュラムでは重要です。さらに専門職業人として、入職後に早い段階で実働部隊として活躍できる人材を育てていかなければならない責務もあります。

平成18年度診療報酬改定は病院に勤める業務を大きく変えるものでした。それまでの病院栄養士の仕事は、給食管理業務に時間を費やすことが多く病棟へ足を延ばすことは少なかったと思われます。これを機に、病棟常駐し患者の食事中にも何気ない食事のアドバイスをすることで管理栄養士の存在が認知されるようになり、それを見ていた医師や看護師等が管理栄養士の存在に気づき、チーム医療の一員として認知されたものもこの時期からと思います。さらに糖尿病や腎臓病、がん領域で管理栄養士が主体となった臨床栄養に関する研究が進められるようになりました。病院栄養士は多くの学会での研究発表に加え、関連組織である「日本栄養士会病院栄養士協議会」では、全国規模の大規模臨床研究(厚労省関連)を行い、厚労省との連携しつつ臨床栄養分野での研究の必要性や重要性を学んでいきました。この際まとめられた論文は、「糖尿病診療ガイドライン2019」の引用文献として用いられ「管理栄養士の食事療法の重要性を示す」一助になったと思います。

今回のコロナ禍の影響により、患者さんへの個人栄養指導等は減少したものの、短時間であれば病棟訪問が可能となり、看護師と協力し

栄養摂取量把握などを行っているとの情報も得ています。直接的な治療に関わることが無くても栄養状態の悪化は治療に影響を与えます。今こそ、病院栄養士の頑張りは重要です。

これまでの経験を踏まえ、私の大学における指導者としての業務は、臨床栄養学の教育・研究において、常に最先端の信頼性の高い情報を収集し、それらを学生に伝えていくことではないかと考えます。特に医療に携わる管理栄養士の業務は、施設の規模や組織での職位など、環境によってそのニーズは異なり、管理栄養士に求められる役割は多種多様である。管理栄養士がチーム医療の一員として(専門職として)効果的に機能するには、スキルの高い医療に関する知識に加え、医師を含めた他職種や患者・家族からの社会的評価も重要です。学生にとって、いま教科書に書いてある内容を理解し覚えることは勿論重要ですが、臨床栄養学は日々進歩しています。管理栄養士として、生涯にわたって食・栄養・健康の課題解決に従事するためには、氾濫する情報の中から最新のエビデンスに基づいた専門的情報を習得し、それを状況に応じて活用していく知識・スキルを身につけることがより重要であると考えます。さらに、日本栄養士会等での社会的活動からもたらされる管理栄養士の将来像を学生に示すことにより、これからを担う管理栄養士を育成していきたいと考えております。

栄養学科長 中川 幸恵



遠隔授業を通しての自己学修力の強化

2004年に、日本で最初の助産の専門職大学院として開設された当研究科ですが、開設17年目を迎えた現在でも、日本で唯一の助産の専門職大学院です。

2005年に、文部科学省からの補助金を受け、マタニティサイクル助産ケアI(妊娠期)マタニティサイクル助産ケアII(出産期)マタニティサイクル助産ケアIII(産褥期・新生児期)の「モジュール学習」(学習ガイド)を作成しました。

モジュール学習(learning module)とは、どのような学修者でも、十分な学修時間をかければ、どのような学修課題でも達成できる(完全習得学習)という考え方に立って、学修目標を明確にし、目標達成を確認し、学修を保証する手段として提唱された方法です。

また、助産研究科の院生は成人であり、学修は内発的動機のもと、自己の学修の責任を自ら負うという点で、自ら学ぶためのtool(手段)を持つことが、自律した学修方法として、欧米では職業教育において広く用いられています。

本大学院においても、学修者が主体的に学修できるように、この方法を講義等による学修の中に取り入れています。

モジュール学習の進め方は、「学習ガイド」に則って、マタニティサイク

ル助産ケアI・II・IIIの科目について、自己学修を始めます。今年度は4月7日に「学習ガイド」と必読図書を、入学生のもとに郵送しました。「学習ガイド」には、必要最小限の参考文献が掲載されていますので、その文献を使って「学習ガイド」にある質問に答えを出していきます。

遠隔授業では、1週間前に担当院生に課題をGoogle Classroomに提出してもらい、その内容に他の院生がコメント・追加内容を書き込みます。教員も1週間前に、音声付Power PointをGoogle Classroomにアップします。院生は授業までに、教員の授業説明を視聴し、授業中に双方向の質疑応答やディスカッションを行います。授業終了前に、ミニテストで、授業の到達目標を確認しています。

例年なら、6月から実習が始まるので、2ヶ月の集中講義で、自己学修も含めて行っている科目です。今年は、週1回の進度で授業ができていたため、院生の自己学修力が強化されているのを、教員は実感しています。後期の実習で、その自己学修力が評価できます。初めての授業形態で、院生、教員共々、戸惑いや工夫を経験し、院生も自己の学修力の強化を実感できていると思います。

助産研究科長 本宿 美砂子



次代に継ぐ想いを新棟に込めて

清水建設株式会社 教育・文化施設設計部 大西 宏明 様

2011年に将来構想委員会を設置されて以来、新2号館の実現のために多くの方が長い時間をかけて事業の推進に努めてこられました。時には困難と思えるような状況であっても常に誠実に向き合われたことで今日を迎えることができたのだと思います。これらは乗り越えるべく用意された試練であったのかもしれませんが、それ故に今、学園関係者と建設に携わることのできた私たちが同じ想いを抱き、同じ喜びを感じられていることに心から感謝します。

新棟建設の目的はキャンパス内の老朽化施設を更新し新しい時代の教育スタイルに対応した環境を整備することでした。その際、大学が目指す将来像を議論し、キャンパスマスタープランとして策定し、これに沿って新棟を設計しました。

2018年3月に創立70周年事業のひとつ「天使学園のルーツを辿る旅」に清水建設の3名が同行させていただく機会を得ました。マルセイユ、アッシジ、ローマを巡る旅では、通常の観光旅行では見聞きできない場所や人に接することができて有意義であったことはもちろんですが、それよりも何よりも、学園の方が旅の先々で見せられた表情や振舞い、発せられた言葉、涙されたその瞬間を一緒に過ごせたことが、旅で得た最大の収穫でした。

旅で得た「共感」はすぐに新棟設計へのプレッシャーに変わりました。多くの制約の中で、数十年先のキャンパスを考えながら「天使らしい」デザインと空間を実現する。キャンパスの「変えるべきもの・守るべきもの」をかたちにし、学園に関わるすべての人達が癒され笑顔になれる場所

を創る、そのような想いを計画に込めました。

新2号館の外観にはカトリック精神を表出する尖頭アーチを採用しています。また中庭に面して回廊を設け、もともと複雑につながっていたキャンパスに中心性と回遊性を持たせました。新しい食堂カフェ・ラーニングcommonsは回廊を介して中庭と一体になり、開放的でフレキシブルな学修空間を構成します。上階には図書館、大講義室、看護学科・栄養学科の実習室・実験室、体育館兼講堂を配置しました。新しいマリアホールでステンドグラスから想いを学び、中庭のマリア様に見守られる気配を感じながら、すべての学生や教職員の方が何気ない日常を穏やかに過ごされることを願っています。

新2号館の完成をスタートに天使大学が目指す未来像はこの「中庭と回廊」を中心にしたキャンパスです。今後も段階的かつ持続的にキャンパスは再生を繰り返します。個々の建築は来たる社会に応じて、その時代の関係者が最適な校舎を創ってくれることでしょう。大事なことは「ルーツ」である先人たちに想いを馳せ、未来の人を想い、「今」を創造することだと思います。そのような「想い」を新2号館という「かたち」にして次代に継いでいくことをお手伝いできたのなら、すべての関係者にとっての喜びであり、意義深いプロジェクトであったと感謝する想いです。



天使大学回廊

中庭の無原罪聖母に込めた思い ～無条件の愛・祈り～

天使大学後援会長 小原 まり子

2020年5月天使大学後援会は学園創立70周年記念行事として、大学の中庭に無原罪の聖母像を寄贈しました。回廊に沿った壁には「マリアの祈り」の言葉が表記しております。今、世界中は新型コロナウイルス感染拡大で人々は生命の危機にさらされており、また、経済も大きな打撃を受けております。一人ひとりの生命が紛争や愛情の欠如から生まれる虐待や殺害などのいのちの価値の喪失による悲惨な出来事が後を絶たない様に思われます。中庭の聖母マリア様は「静かに考えなさい。

静かに行動しなさい」と私共に慈愛の眼差しで語りかけているお姿に心温まるやすらぎをおぼえます。

さて、学園の学生生活を振り返ってみると、当時は全寮制でした。

学園の敷地内や修道院など、いたる所にマリア像が安置されて四季折々の花にかこまれたお姿はあたり

前の風景でした。私は気持ちがあくじけそうになった時、ルルドのマリア様に手を合わせお願いをした事は忘れられない思い出です。

看護科の公式の服装は、白のユニホームと青地に裏は赤地のマントでした。マント着用はカトリック行事や戴帽式・卒業式・実習時の外出に使用しておりました。ある画像によると聖母マリア様の衣の色は赤で青いマントをお召になっていると記されておりました。スクールカラーの青いマントは天使の学生としての自覚と誇り着用時には背筋がピンとなったことを覚えております。授業や実習では、シスターや教員は理論だけではなく、看護の力のお手本の実際を示され人間愛と礼儀正しい女性として教育されました。人としての生き方は「総ては自分です。人のせいにはしない事です」の教えは、今も私の道しるべとなっています。

建学の精神「愛をとおして真理へ」のもと天使学園の歴史と伝統の継承、そして更なる発展を無原罪の聖母マリア様に祈願し、中庭が皆様の憩いと安らぎの空間となりますことを祈念しています。



無原罪の聖母像

『新棟ステンドグラスに込めた思い』—象徴としてのステンドグラス—

天使大学同窓会長 野原 純子

天使大学70周年おめでとうございます。

天使大学70周年記念記念式典が終了、新棟が完成し同窓会から寄贈したステンドグラスが設置されました。

竣工式の時に初めて見せて頂き「素晴らしい！」出来栄に驚きと感動でした。思っていたより一階のラーニング・commonsにマッチし、学生の出入り口からや1階エレベータ出入り口からも必ずや目に入り、足を止めることでしょう。このステンドグラスの選択には、同窓会として記念になるもの、誰がみても「天使らしさ」が表現されているものを強く望んでいました。ステンドグラスの図柄「聖母マリアのエリザベト訪問」は現在の天使大学にとり意味あるものと信じています。70周年記念誌にも書かせていただきましたが、天使大学の「天使」の由来は、アッシジの聖フランシスコがこよなく愛した貧しい小さなポルチュウクラ聖堂「天使の聖母聖堂」であると言われております。この大学の創立者であるマリアの宣教者フランシスコ修道会のシスター達の思いである病む人々に自

分を差し出し、人々の役に立ちなぐさめる人間でいてほしいことに通じているように思います。聖書の詳細は知らなくても、このステンドグラスの前に立つと優しい気持ちになり自然と祈ったり願ったりできると思います。そして天使大学の歴史を思い起こす機会になると思っています。

本当に同窓生に見せられないことが残念です。ホームページに写真をアップしようと考えています。いつか足を運び新校舎とステンドグラスに感激してほしいです。

最後に、天使大学学生、教職員、同窓生、そしてこの大学を訪ねてくれるすべての方々へ聖母マリアのご加護がありますよう祈念しております。



聖母マリアのエリザベトのご訪問

新入生・学生支援教員からのメッセージ

講義についていけるか不安だった日々

私は推薦入試で天使大学に合格しました。夏休み前から小論文の勉強に力をいれてきました。同じ推薦入試で受験するクラスメイトと、共に取り組んでいたのは良い思い出です。私は、小論文を書くことはあまり得意ではありませんでしたので、合格者のページに自分の番号が載っているのを見たときは、本当に嬉しかったです。早く大学に通うことが大きな楽しみでしたが、新型コロナウイルスの影響でまだ一度も足を踏み入れていません。入学式も楽しみにしていたので、中止と聞いたときはショックを受けました。新調した鞆もまだ出番はきていません。ですが、オンラインが始まり、ようやく大学生としての実感をもつことができました。

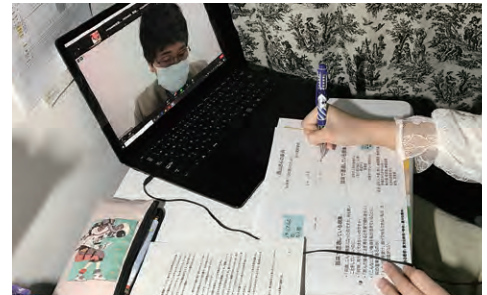
私には不安だったことが、2つありました。1つ目は、授業についていけるかどうかです。高校では文系だったこともあり、専門的な生物や化学には一切触れていませんでした。しかし、合格後にそれらの問題集が届き、高校の先生に教えていただきながら理解を深めることが出来ました。授業のスピードは速いですが、復習を大切にしていれば追い付けます。先生方の丁寧な説明もありますので、少しつまづいてもすぐに解決することができるので良かったです。2つ目は、友人ができるかどうかです。オンラ

看護学科1年 平位 朱花



イン授業が始まるまでは誰も知り合いがおらず、非常に不安でした。ですが、以前にオンラインでの交流会があり、そこで友達を作ることができました。グループワークもあり、初めは緊張しましたが回数を重ねるごとに慣れていき、今ではスムーズに進めることができます。早く友達に会うことが楽しみです。

まだ大学には通っていませんが、初回登校日が決まりました。その日がとても待ち遠しいです。今年は後期も遠隔授業を基本とするそうですが、しっかりと学びを深めていきたいです。この一年を大切に組みたいと思います。



遠隔学習の様子

天使大学へようこそ!

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。看護職の道を志し、数ある看護教育機関の中から天使大学を選んでくださり、心から嬉しく思います。

今年は、新型コロナウイルスの流行により、楽しみにされていた入学式や友人との対面がなかなかできず、不安な日々を過ごされていたことと思います。7月から、少しずつ学校に来られるようになり、やっと大学生活をスタートできたと実感されているのではないのでしょうか。

天使大学では、「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、すべての人を大切にし、その人の立場にたって支援することができる看護職を目指します。そのため、講義や実習をはじめとする看護の技術や知識を学ぶことはもちろんですが、修養会やミサといった自分を内省する時間が定期的に設けられています。この時間は、今の自分を見つめ直し、将来どんな自分になりたいのかを考える機会になります。また、合唱コンクールや天使祭、体育祭など、クラス単位で取り組む行事も多く、友人との絆を深めることができます。今年は、それらの行事も中止や縮小となってしまうかもしれませんが、4年間かけて、友人との絆を深

看護学科1年学生支援教員 高橋 彩華

めながら、大学生活を楽しく過ごしていただきたいと思います。

1年生の支援教員7名は、皆様が安心して大学生活を送れるよう、学習面や生活面のサポートをさせていただきます。心配なことや不安なことがある場合は、1人で抱え込まず担当の支援教員に相談してくださいね。皆様と一緒に、教員も成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



左より 上段 小島先生、重岡先生、高橋(彩)先生
下段 新聞先生、前田先生、船木先生、服部先生

新しい仲間との出会いを切望する日々

私達は今、授業のほとんどを、パソコンやスマートフォンなど、機器の画面と向き合って受けています。本来なら、学祭も無事に終了して友達と楽しく話していたのかな、と思うと少し寂しい気がします。

さて、ここでは、春から、この原稿を作成している現在までの大学生活についてお話します。

私は、春に地元の旭川を離れて、札幌に引っ越してきました。馴染みのない土地で、一人暮らしが始まったので、最初は自分の生活に慣れるのに精一杯でした。そして、5月上旬からオンライン授業、7月からはオンライン授業と並行して、一部の科目で対面授業が始まりました。

オンライン授業についてですが、現在、必修科目や私が選択している科目では、リアルタイムで受講するものよりも、先生方によって作成された授業動画を見て、出席確認や課題などを提出するものが多いです。そして、今回は例年のような定期試験は設けられないので、課題に対する評価割合が高くなった科目が多くあります。課題は、どの科目も毎回出されるので、提出期限を確認して、出し忘れないように気を付けなければなりません。でも、期限が良心的であるため、大変ではありますが、しっかりと取り組むことができています。

みんなで頑張りましょう！

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。今年の天使大学は、新型コロナウイルス感染予防のため、卒業式・入学式が中止となりました。学生の皆様は不安なまま自宅待機が続く中、5月から遠隔授業が始まり、夢と希望を抱いて札幌で一人暮らしを始めて間もなく、実家へ帰った方が多かったと思います。1年生の支援教員である金澤康子先生（生化学）、西隆司先生（食品科学）、岡部哲子先生（給食経営管理論）、金吉美歩先生（食品科学実験）、吉田真弓（応用栄養学）の5名が4月中旬、皆様の近況を確認するために携帯電話へ連絡しました。突然の電話で驚いたことと思います。不在の場合は何度も電話をしたため、不審者からの電話かと思い、本人ではなくお母様から折り返しのお電話をいただき、教員であることがわかるとほっとする場面もありました。1年生全員が元気で無事であることがわかった時は支援教員一同、安堵いたしました。その後、遠隔授業のGoogle Classroomを立ち上げ、中川学科長、ケン神父様、支援教員からのメッセージ、新入生オリエンテーションを掲載し、授業開始に向けて準備が始まりました。7月からやっと待望の対面授業が2科目だけですが始まります。人間形成とキャリアデザインⅠは、新校舎の体育館（臨時の教室となっ

栄養学科1年 濱元 綾夏



次に対面授業についてです。本学では、将来、医療に携わることが多い学生を指導する大学として、やはり、徹底した感染症対策が行われました。そして、初回の対面授業は調理学実習でしたが、その時はりんごのコンポートを自宅で作ることになりました。基本的には、今の状況が落ち着くまで、1つの調理台に2人が入り、自分一人で調理して、それを自分でいただく形式となります。

このように、対面授業はまだ始まったばかりということもあり、栄養学科では学生同士の交流もほとんど行われておらず、学内の友人はできていません。それについては不安ではありますが、この状況を乗り越え、いつか大学の多くの方と普通に話せる日が来るのを期待して、授業に臨んでいます。



遠隔学習の様子

栄養学科1年学生支援教員 吉田 真弓

ています)で行われます。調理学実習Ⅰは、少人数に分割して、フェイスシールドとマスクを着用して行われます。今後も遠隔授業と並行して行われるため、毎日通学して勉強する形にはなりません。少しずつ天使大学での学生生活に慣れてください。また栄養士の卵として自分の食生活を整えて新型コロナウイルスに負けないように免疫力を高めてください。たくさんの友達と交流を深め、充実した楽しい大学生活を送れるように支援教員は、いつでもサポートします。遠慮なくご相談ください。



左より 上段 西先生、金吉先生、岡部先生
下段 吉田（真）先生、金澤先生

4年次学生・学生支援教員からのメッセージ



遠隔実習を受けて

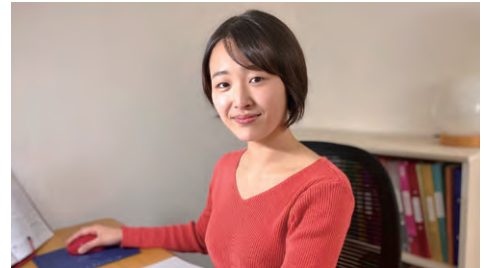
看護学科4年 石井 綾乃

急激に蔓延したコロナウイルスの影響で、私たち4年次の病院実習は、遠隔実習へと変更され、自宅での実習が始まりました。Zoomの操作や使用方法については、パソコンや携帯と共に生活してきた私達にとって、比較的受け入れやすく、落ち着いて向き合うことが出来たと思います。

遠隔実習では、文字から患者さんの表情や思い、言葉のニュアンスを想像し、看護の方向性を考える必要がありました。当初は、文字だけで想像することは難しく、患者さんの個性に合わせた看護を提供するには、実際に病院で患者さんと関わりを持つことが必要だと考えていました。病棟の雰囲気や看護の実際を知るという経験が、遠隔実習で得られるのかという不安もありました。しかし、私が2、3年次の実習では、自分の思いを看護師に伝えない方や、会話でのコミュニケーションが取れない方、乳幼児など、患者さんの思いを事前の情報から想像して、看護を提供しなければならない場面が多くありました。また、患者さんの担当看護師は日々変わり、自分が担当する日以前の様子を、電子カルテから読みとり、受け持つということが、当たり前に行われていました。

このように、遠隔実習で大変だと考えていた「想像して看護をすること」は、自分が現場に出た際には当たり前かつ必要不可欠な能力であり、遠隔実習を経験したからこそ、磨かれた力だと考えています。

以前までの、当たり前前に学校に通い、友達と過ごす学生生活が一変し、一人自宅で、パソコンに向かう学生生活となりました。一人で過ごすことで実習や就職活動の悩みが悶々と自分の中にあります。実習での気付きの一方で、以前の私は、友達との些細な日常が支えになっていたことを実感しました。この先、どのような状況でも、多くの友達と声を掛け合いながら臨機応変に対応し、何事にも前向きに取り組みたいと、強く思っています。



遠隔授業の様子

うれしい出来事

看護学科3年学生支援教員 高橋 順子

遠隔授業は、慣れない機械操作と無機質な画面に語りかけるといってこれまで経験のない苦労のあるものでした。帰宅時には連日疲労困憊しており、日頃学生たちの反応や表情にどれだけ助けられていたのかを痛感したものです。

学生のみなさんも当初は同様だった様子で、「これはどうしたらよいですか」「届いているか不安です」などの問い合わせが多数あり、普通に講義ができる日常のありがたさにお互いが気づかされました。

そんな日々の中で、先日とてもうれしい出来事がありました。複数の3年生から、昨年実習でお世話になった高齢者施設に、



学生の手作りマスク

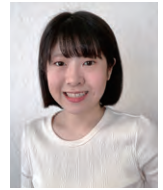
手作りマスクをプレゼントしたいという申し出があったのです。様々な報道に触れ、自分たちにも何かできることはないだろうかと思った末の行動だったようです。色とりどりの生地で作成したそれらは、手にすると学生たちのあたたかい気持ちが伝わってくるような素朴なマスクでした。中には慣れないお裁縫作業のためかほころびが生じたものもあり、見かねた秘書さんがミシンで手直しをして下さいました。そうこうしてお届けしたマスクでしたが、施設の方々が喜んでくださったのは言うまでもありません。後日丁寧な御礼のお手紙まで頂戴し大変恐縮しました。

本学の理念は「愛をとおして真理へ」です。この手作りマスクの一件は、学生たちが、多くの方々の支援や協力を受け、まさに「愛」を育ててきたのだという事を知らされたエピソードでした。進級してから1度も登校する事はかなわず、通常であれば可能な技術練習も全くできていません。そのため看護に必須となる実技を身につける事がなかなか難しいと感じていましたし、みなさんも不安だったはずで。

しかし、どれ程熟練した技術でも、心が伴わなければ看護とは言えません。どのような環境にあっても天使の学生たちは、看護に不可欠な「愛」という素地を形成しているのだと確信した出来事でした。

現在の学習状況とこれからについて —経験から学んだこと—

栄養学科4年 鈴木 笑梨



新型コロナウイルスが猛威を振るう中、実感がわかないまま4年次に進級しました。4月は授業や実習がどのようになるのか全く分からない状況だったので、自分にはなにができるだろうと日々考えながら毎日を過ごしていました。まず、6月下旬に教員採用試験が控えていたので、そのための勉強をしたり、国家試験に向けて少しずつ自己学習を進めていました。そうしている中でオンラインでの講義が始まり、Google Classroom やZoom を



遠隔実習の様子

使用し、対面と変わらないような講義や演習を受講しました。初めはパソコン操作など戸惑う場面もありましたが、回を重ねるごとに色々ことが出来るようになりました。またオンライン講義ならではの、繰り返し講義を視聴することができるのが、事後の自己学習にも大変役立ちました。資料も大

学から送付され、受講の実感を得ました。しかし一人で勉強をしているとどうしても行き詰ってしまう時がありました。そのような時には、同級生に直接会って、話をする事が出来ない代わりにビデオ通話などで近況を報告しあったり、色々な話したりして息抜きをしました。

このコロナ禍が続く中で、新たな生活様式を取り入れたり、体調管理や学習に対して自己管理できる力をつけることが必要であることを改めて感じました。また、体験したことのないような未知の状況に対しても固定概念にとらわれず、柔軟に対応していく力が必要であることも痛感しました。今後の、学校実習や国家試験に向け、不足を補い準備を整えるように行動したいと思います。3年、2年そして新入生の皆さんも同様に不安の中で遠隔授業を受けていることを思います。食を通して人々の健康増進に貢献する管理栄養士を目指している栄養学科生として、自己の健康管理をしっかり行っていきましょう。そして、この体験を次のステップアップに活かせるように頑張りましょう。授業等で支援いただいている教職員の皆さまにも感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

シスター セルビアナ様の教え —感謝のこころを持ちましょう—

栄養学科4年学生支援教員 山口 敦子

新型コロナウイルス感染拡大による北海道の緊急事態宣言が2月下旬に発令され、卒業・入学式の中止を余儀なくされました。人生は想定外のことが起こるものであると言われていますが、新型コロナウイルスは研究者の方からは難題と言われています。

大学は3月末から対応等の公表、4月下旬から授業資料の郵送、遠隔授業の整備等々を行いGoogle Classroom やZoom を利用したオンライン授業をスタート致しました。学生さんには授業が開講されない不安やオンライン授業等で、多くのご不便をおかけしたと思います。学生さんの協力がとても心強く感じました。



Sr. セルビアナ

ステイホームの期間に学生さんから“元気です”の声が届き、これほど感激したことはありません。同時に、この日常の中で私達の生活をサポートしてくれている多くの人々に感謝することや、この危機をどのように活用したらいいのかと考えるチャンスにさせていただいたら幸いです。そ

れは、天使女子短期大学の恩師であるシスター セルビアナ様 (Sr. 中村タキ)の願いを学生の皆さんに繋げていきたいという私の想いです。

シスターは短大で生理学をご担当された医師の資格をお持ちの先生でした。ご指導を受けた多くの学生から慕われました。授業は勿論、「愛と真理」を実践して学生に示してくださいました。同窓生の方が開いている「タキさんのお店」の由来はシスターのお名前からです。“教え”の中の1つ「感謝するのですよ」は多くの卒業生の心に浸透していると思います。私はアスンタ寮の寮生でしたので1日に3回の祈りの時に受けた教育は宝物です。栄養学科の学生さんにはいつも同じことを伝えていますが、改めてシスターの教えの深さをお伝えしたいと思います。「過去・現在・未来の学生のために祈っているのよ」とシスターはいつも仰っていました。現在も学生さん1人1人を大切にしている大学を天国のシスターは見守っていらっしゃるのではないのでしょうか。

社会から守られていることへの感謝をしつつ、「新しい生活様式」を踏まえて、この難局を乗り越えていきましょう。

……新型コロナウイルス感染拡大における学生への経済的支援……

天使大学では、学生の生命と健康を守り、感染しない、感染させないことを徹底するために対面授業をやめ、オンラインによる遠隔授業を行っています。
 本学では、遠隔授業の受講に際し、パソコン、インターネット環境等のを支援するため、全学生（大学院生を含む、休学者を除く）を対象に、
1人あたり5万円を「遠隔授業環境整備支援金」として給付しました。
 また、アルバイトの休業あるいは自粛を余儀なくされ、生活に困窮し、当面の食費がない、家賃・光熱費等を支払うことができない切迫した学生を対象に、
「天使大学 応急学生支援金」として「5万円」を給付しました。

2019年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	80	89	14	7	-
進学決定者	10	0	0	0	-
進路希望無し	1	2	0	0	-
卒業者	91	91	14	8	-

【看護学科】就職・進学先

	看護師	進学
国立病院	大学病院(国公立) ・北海道大学病院 ・旭川医科大学病院 ・札幌医科大学付属病院 ・千葉大学医学部附属病院 ・筑波大学附属病院	看護系大学院 ・天使大学大学院 助産研究科 ・天使大学大学院 看護栄養学専攻 看護学専攻 保健師コース
公立・公的	大学病院(私立) ・北里大学病院 ・慶應義塾大学病院 ・順天堂大学医学部附属 浦安病院 ・順天堂大学医学部附属 練馬病院 ・東京女子医科大学病院 ・東京歯科大学 市川総合病院 ・東京慈恵会医科大学付属病院	看護系その他 ・札幌医科大学専攻科 助産学専攻 ・札幌医科大学専攻科 公衆衛生看護学専攻 ・北海道立旭川高等看護学院 地域看護学院
社会保険関係法人の病院		
JA北海道厚生連 札幌厚生病院		
JA北海道厚生連 帯広厚生病院		
JCHO北海道病院		
KKR札幌医療センター		
市立札幌病院		
国家公務員共済組合連合会 斗南病院		
滝川市立病院		
名寄市立総合病院		
留萌市立病院		
神奈川県立こども医療センター		
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院		
横須賀市立市民病院		
横浜市立みなと赤十字病院		

【栄養学科】就職先

自治体	病院・クリニック	歯科医院	一般企業
・北海道 ・岩見沢市 ・室蘭市 ・利尻富士町 ・厚生労働省(食品衛生監視員) ・北海道警察	・JA北海道厚生連 ・旭川赤十字病院 ・石金病院 ・勤医協札幌病院 ・札幌西山山病院 ・札幌はたけやま内科・胃カメラ大腸内視鏡クリニック ・札幌東徳洲会病院 ・手稲深仁会病院 ・道北勤医協一条通病院 ・函館脳神経外科病院 ・北斗病院 ・北海道勤労者医療協会 ・亀田メディカルセンター ・川崎田園都市病院 ・埼玉医科大学病院 ・三愛会総合病院 ・新浦安虎の門クリニック ・丸木記念福祉メディカルセンター	・さっぽろフロア歯科クリニック ・一心会 給食委託会社 ・株式会社LEOC ・シダックス株式会社 ・日清医療食品株式会社 調剤薬局 ・株式会社なの花北海道 ・株式会社フォーラル	・石屋製菓株式会社 ・オカモトグループ ・株式会社アプレフ ・株式会社さきのとや ・株式会社クリニック ・株式会社ケイセイシイ ・株式会社サッポロドラッグストア ・株式会社シマヤ ・株式会社ツクルバ ・株式会社ツルハ ・株式会社トモズ ・株式会社ピクルスコーポレーション ・株式会社北辰フーズ ・株式会社ホクビー ・株式会社明治(北日本支社) ・コープフーズ株式会社 ・国分北海道株式会社 ・サンマルコ食品株式会社 ・日本ハム惣菜株式会社
教育機関 ・北海道教育委員会 ・さっぽろ青少年女性活動協会			
福祉施設 ・株式会社ベネッセスタイルケア ・株式会社らくらホールディングス ・社会福祉法人大友恵愛会 特別養護老人ホーム大友恵愛園 ・中銀インテグレーション株式会社			
保育園 ・株式会社global bridge ・株式会社モード・プランニング・ジャパン ・社会福祉法人こどもの社 認定こども園えほんの森 ・社会福祉法人ゆたか会 ドリームキッズ保育園 ・ひばりが丘あすなろ保育園 ・ライクアカデミー株式会社			

【大学院】就職先

所属：助産基礎分野	所属：助産教育分野	所属：ホスピス緩和ケア看護学コース	所属：成人看護学コース	所属：保健師コース
・北海道病院 ・市立札幌病院 ・砂川市立病院 ・天使病院 ・札幌徳洲会病院 ・勤医協札幌病院	・北海道勤労者医療協会 ・旭川医科大学病院 ・旭川厚生病院 ・湘南藤沢徳洲会病院 ・済生会横浜市東部病院 ・聖マリア病院	・聖母病院	・ホームケアクリニック札幌 ・札幌保健医療大学	・札幌市他

入試結果

看護学科			栄養学科			看護学専攻			栄養管理学専攻 博士前期課程			栄養管理学専攻 博士後期課程			助産研究科助産基礎分野			助産研究科助産教育分野		
試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)	試験種別	受験者数	合格者数(倍率)
公募制推薦	59	36 1.6	公募制推薦	35	34 1.0	一般 前期	3	2 1.5	前期	0	0 -	前期	1	1 1.0	推薦	13	11 1.2	前期	1	0 -
社会人	3	1 3.0	社会人	0	0 1.0	一般 後期	2	2 1.0	後期	1	0 -	後期	1	1 1.0	前期一般	12	8 1.5	後期	1	0 -
一般	285	74 3.9	一般	73	48 1.5	総計	1	0 -	総計	0	0 -	前期社会人	1	0 -	後期一般	2	1 2.0	後期社会人	3	1 3.0
センター利用	150	41 3.7	センター利用	52	13 4.0															

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
 ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科
 大学院/看護栄養学専攻
 助産研究科(専門職学位課程)

第29号 2020年8月1日 発行 天使大学広報委員会

http://www.tenshi.ac.jp